

おしえて
大石先生

子どもの ぜんそくと 受動喫煙について



高知大学医学部小児思春期医学教室
大石 拓 先生

ぜんそくは、息をする
ときの空気の通り道
が狭くなり、息が苦しくなる
状態(ぜんそく発作)を繰り返す
病気で。

ぜんそくの治療には、
予防のお薬と発作時のお薬
があります。予防のお薬は、
症状がなくても毎日飲んだ
り吸入したりします。発作
時のお薬は、症状があるとき
にのみ使用します。

ぜんそく発作を引き起す
ものとしては、**かぜ**、**ダニ**
の死骸や糞、動物のフケ、
カビ、**ゴキブリの死骸**や

糞、たばこや花火などの
けむり、激しい運動、大気
汚染や天気の変化、スト
レスなどがあります。

これらの因子の中でまず

やらなければならぬことは、
**子どもにたばこのけむり
を吸わせない(受動喫煙を
させない)**ことです。目の
前で吸わなくても、吸わない

家族からたばこの成分(「コチ
ニン」)が検出されることが
あります。たばこのけむりは
ぜんそく発作を引き起こす
だけでなく、くりかえす中耳

炎や副鼻腔炎にも関わりが
あるとされています。さらに、
ぜんそくの主な治療薬で
ある吸入ステロイドの効果
を悪くするとも言われてい
ます。受動喫煙の影響は、

①両親 ②母親 ③父親の順
番に強いそうです。なぜなら
母親は、父親よりも子ども
のそばにいる時間が長いから
です。

以前は毎年時期が来ると

ぜんそく患者さんが発作で
たくさん入院していました。
今では良いお薬が使用でき
るようになり、発作を起こ
さないように管理することが

容易になっています。それ

でも夜間に発作を起こして
時間外診療を受けたり入院
したりするケースがあります
が、その場合の多くはお医

者さんに指示された通り薬
を飲んでなかったり、家族が
喫煙していたり、毛の生えた
ペットを飼っていたりします。

**ひんぱんなぜんそく発作
は、学校の欠席やスポーツ
への苦手意識、その後の社
会生活(人との関わり方)
にも大きな影響を及ぼす
可能性があります。**

子どものぜんそくの発症
は環境だけで完全に予防で
きませんが、できることから
やっていくことが必要です。
そのためにもまずは**家族が**

**禁煙し、子どもに受動喫煙
をさせないように**しましょう。

